

## 第二回中琉歴史関係シンポジウム開催に際して

中国第一歴史档案館館長 徐 藝圃

尊敬する金城功先生

尊敬する沖縄県教育委員会学術代表団の皆様

尊敬する各専門家、学者、友人の皆様

第二回「中国・琉球歴史関係シンポジウム」は、沖縄県立図書館と中国第一歴史档案館が意欲的に準備を進め、専門家・学者を組織し、学術論文をご用意いただき、今日めでたく北京において開会する運びとなりました。私は謹んで中国国家档案局王剛局長、中国第一歴史档案館任世鐸・秦国経両副館長、及び档案館の全職員を代表しまして、今回のシンポジウムが成功裏に開会できましたことに対し、心よりお喜びを申し上げます。

このたびのシンポジウムは中国第一歴史档案館と沖縄県教育委員会が一九九一年三月十八日に交わしました覚書の重要項目の一つを執り行うものです。その目的は、中日双方の学者が中琉の歴史関係についての研究と交流を深めることを通して、中琉両国人民の古くからの深い友情に思いを馳せ、そしてその基礎の上に、さらに今後の世々代々にわたる各方面の交流と協力関係を開拓し促進しようというものです。古きを温ねて新しきを知り、先人の業

を継ぎ、これを発展させ、先人の切り開いた道を踏みしめつつ、中日友好関係のいっそうの発展を維持、促進するために共に貢献いたしましょう。

また「第二回中国・琉球歴史関係シンポジウム」には、日本の法政大学、琉球大学、白梅学園大学、神戸女学院と長岡工業高等専門学校の各専門の先生方もご参加なされ、主に七篇の論文について討論していくことになっております。つきましては、各先生方が、互いに学び、長を取り短を補うというお気持ちで、深く掘り下げて討議なされ、不足を修正し、白熱した論議を展開されて、共に高め合うという目的を達成し、今回のシンポジウムが学術的に新たな功績を打ち立てることができ、さらに大きな成果が得られるよう希望いたします。

私は第二回中琉歴史関係シンポジウムの開催が、ご参加いただきました中日の学者にとりまして、学術研究方面においていっそう大きな貴重な経験と情報をもたらし、私たちの研究の進展を助長するものと信じております。中国国家档案局といたしましたは、皆様のご研究のために、いっそう発掘に力を入れ、より多くの新しい史料の提供に努めたいと考えております。第三回の中琉歴史関係シンポジウムではより多くの、より素晴らしい論文が発表されることを期待いたします。

第二回中琉歴史関係シンポジウムのご成功を祈ります。ありがとうございました。

一九九三年十月九日